

製品名: シナプシン I (リン酸化 Ser605) ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab05501

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:200-1:1000, ELISA 1:10000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	SYN1
別名	SYN1; Synapsin-1; Brain protein 4.1; Synapsin I
遺伝子 ID	6853.0
SwissProt ID	P17600
免疫原	抗血清は、ヒトシナプシン 1 の Ser605 のリン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 576-625

背景

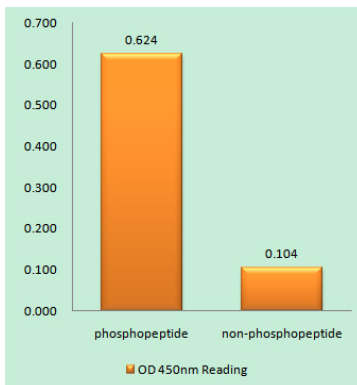
この遺伝子はシナプシン遺伝子ファミリーのメンバーです。シナプシンは、シナプス小胞の細胞質表面に結合する神経リン酸化タン

パク質をコードします。ファミリーメンバーは共通のタンパク質ドメインを特徴とし、シナプス形成および神経伝達物質放出の調節に関与していることから、いくつかの神経精神疾患における潜在的な役割を示唆しています。シナプシンファミリーのこのメンバーは、軸索形成およびシナプス形成の調節に役割を果たします。コードされているタンパク質は、いくつかの異なるタンパク質キナーゼの基質として機能し、リン酸化は神経終末におけるこのタンパク質の調節に機能している可能性があります。この遺伝子の変異は、レット症候群などの原発性神経変性を伴う X 連鎖疾患に関連している可能性があります。異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが同定されています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、疾患: SYN1 の欠陥は、X 連鎖性てんかんの原因であり、様々な学習障害および行動障害を伴う[MIM:300491]。XELBD は、てんかん、学習障害、大頭症、攻撃行動が様々な組み合わせで現れるのが特徴です。機能: シナプス小胞を覆い、細胞骨格に結合し、神経伝達物質の放出を調節する神経リンタンパク質。NOS1 および CAPON タンパク質と形成される複合体は、シナプス前レベルにおける特定の一酸化窒素機能に必須です。PTM: 少なくとも 4 つの異なるタンパク質キナーゼの基質。リン酸化は神経終末におけるシナプシン 1 の調節に役割を果たしていると考えられます。DNA 損傷時にリン酸化される。おそらく ATM または ATR によるものと思われる。類似性: シナプシンファミリーに属する。サブユニット: ホモ二量体。CAPON と相互作用する。NOS1 と三量体複合体を形成する。アイソフォーム 1b は PRNP と相互作用する。、

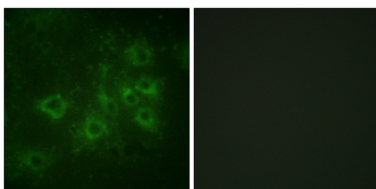
研究分野

神経科学

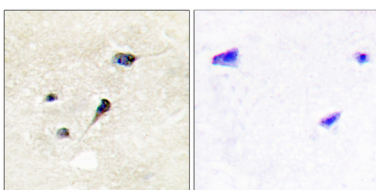
画像データ



シナプシン 1 (リン酸化 Ser605) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



Synapsin1 (リン酸化 Ser605) 抗体を用いた COS7 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



シナプシン 1 (リン酸化 Ser605) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。